

第3回第5期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会

令和7年9月11日(木) 瀬谷区役所5階大会議室

第5期瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)素案に対する区民意見募集(令和7年7月実施)でのご意見を踏まえた計画案について、地域の各団体、医療機関、行政等の策定委員(18名)で意見交換を行いましたので、内容の一部をご紹介します。いただいたご意見を踏まえ、より一層内容を充実してまいります。

区民意見募集(令和7年7月実施)を踏まえた計画案について

- ・「頑張っている世代に向けて何かしてほしい。助ける側になってとばかりに扱われるのは困る。」【区民意見募集から】
→ 計画の基本目標にある「“おたがいさま”で支え合うまち」を、理解してもらえるよう努力していくべきである。
- ・「高齢者でも障害者でも関係なく、横のつながりが地域に根付いてほしい。」【区民意見募集から】
→ このご意見が、計画の忘れてはいけない原点且つ、取り組むべき一番大きな流れなのではないか。
- ・「障害者が地域で生きていくために、つながりがほしい。行きやすい行事があったり、サポートしてくれる人がいたら、こどもを連れて参加したい。」【区民意見募集から】
→ 地域のお祭りに参加したり、地域で活躍している障害のある人もいるが、現状を伝えきれていない。もっと分かりやすく紹介していくべきである。
- ・ 今回の区民意見募集では、「わかりやすい日本語版」も作成したが、もっと周知していくべきだった。「わかりやすい日本語版」は、外国にルーツのある人だけでなく、こどもや障害のある人にも知ってもらえるものである。
- ・ 今後、この計画の取組が進んでいるか確認していく必要がある。区役所・区社協・地域ケアプラザの取組だけでなく、区民の皆さんの行動変容があったか、関係団体がどのような取組をしたかといったことも共有できる機会があると良い。



瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)を 多くの方にどのように周知していくかについて

- ・ この計画は、こどもたちの意見も反映して策定しているが、こどもの意見を引き続き聞いてほしい。そうすることで、「自分たちの計画だ！」と意識を持ってもらえるのではないかな。
- ・ 様々な地域活動をしている人たちに、その活動が地域福祉保健計画につながっていること伝えていくべきである。
- ・ この懇談会の委員になっていない関係機関・活動団体・各種施設等にも、周知が必要である。
- ・ 「地域福祉保健計画」という言葉を知らない人が多い。多くの人の目に触れる機会を作っていくべきである。また、様々な場で耳にしてもらえると良い。
- ・ 60ページ以上の計画冊子を多くの人に見てもらうのは難しい。両面 1 枚程度に凝縮したものを配布したら良いのではないかな。
- ・ この計画の中から、自分たちにできることの話し合いをしてもらうのはどうか。
- ・ 令和8年2月開催予定の「瀬谷区地域福祉保健計画推進シンポジウム」に多くの人に来てもらい、計画を知ってもらうことも周知方法の一つである。そのためには、毎年開催しているシンポジウムも工夫した方が良い。
- ・ 地域に関心のない人や自分事じゃないと思っている人たちにも、自分たちの生活に関係があると思ってもらえるような、周知が必要である。
- ・ 瀬谷区区民意識調査(令和5年度)では、「瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)」を聞いたことがない」と回答した 40 歳未満の若い人たちが 7 割以上いるため、電子媒体を活用しスマホでサクッと見られると良いのではないかな。

学識経験者からのコメント

区民意見募集でもあったが、現役世代は負担を感じている部分もあり、世代間の認識の差がある。この差を、今後の推進で埋めていけると良い。

また、地区内で解決できない課題を、他の地区に協力してもらい、皆でやっていくことが大切である。



- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)素案
- ・ 過去の懇談会の報告書 (バックナンバー)